

保育おおさか

〳〵おかげさまで〳〵
No. 500

平成 29 年 4 月 1 日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪市中央区中寺 1 丁目 1-54

TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426

<http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/>

はばたけ子どもたち!!

~未来へ Go Go Go
500号~

今を刻み、 未来へつなぐ

保育部会顧問 高岡 國士



大阪の保育・福祉を刻み続け
て500回。

昭和50年8月に1号を創刊さ
れて以降、絶え間なく発刊され
た編集委員の皆様や関係者の皆
様に、心より敬意を表します。
保育部会はこれまで強力な

継続は力なり

保育部会会長 永野 治男



今般「保育おおさか」が創刊
500号に達しました。編集に
関わった多くの委員の先生方に
感謝申し上げます。

ネットワークと諸先生方の情熱
により、大阪の保育・福祉に大
きな足跡を残して参りました。
そのご尽力と功績には枚挙に暇
がありません。これまで携わっ
てこられた先生方のご記憶の中
にも、きっと大きく刻まれてい
ることでしょう。

「保育おおさか」は、このよう
な大阪の保育の歴史を刻む文獻
であるとともに、記憶を「記録」
に替え、当時の情熱をも後世に
伝えるという、大変重要な役割
を果たしていると思います。

情報化社会の到来は瞬く間に
訪れ、パソコンやスマートフォン
を開けば、いつでも新しい情
報を伝えてくれます。たいへん

丁度、当園が開園した翌年昭
和50年の創刊。初代編集委員長
は小宮重之先生でした。1、2
年後、当時の井上光・大社協施
設課長の推薦で私も編集委員会
の一員として編集に参画させて
いただきました。当時は小宮委
員長、三上了道先生、小角重之
先生、清水文子女士、毎日新聞
OB等々のメンバーで、毎月4
面を埋めるのが当時から苦勞の
様でしたが、おかげでいい勉強
の時期もありました。

便利な世の中になりました。し
かし、その情報は得てして画一
的であり、本紙のように現場の
立場に立ったパワフルで専門的
な紙面にはなかなか巡り合えな
いものです。

昨今、子育て支援が社会保障
の中心となり、保育・福祉をと
りまく環境は時代とともに、目
まぐるしく変容しています。こ
のような時代だからこそ、過去
を積み重ね、今を刻み、未来へ
とつなげていくことが求められ
ます。

今後とも、新たな役割が求め
られる大阪の保育の発信基地と
して、発刊を積み重ねられるこ
とを願っております。

しんどさを痛切に感じた次第で
す。原稿を出し終わると即次月
の原稿依頼が舞い込んでくる…。
その昔、北畑英樹先生に「こ
とわざ保育ムタ話」のコラムを
お願いした際にも、毎月の原稿
締切に追い回されると小言を頂
戴。お酒の席で、北畑先生の際
には私から、私の場合は森垣施
設部長からお酒で落とされた思
い出が。

保育おおさが斟酌すること
なく会員の皆様へ確かな情報を
提供し続けることを願ってやみ
ません。

第1号が昭和50年8月に発刊、
42年の歳月が流れて今月、「保育
おおさか」500号を発刊する
ことができました。

今まで掲載されてきた記事は、
保育行政に関することや、各プ
ロックの研修や行事等を掲載す
るとともに、調査研究委員会の
研究発表を掲載してきました。

また、各保育園・認定こども
園をめぐっての紹介、テーマを
掲げて、それに取り組んでおら
れる園の紹介、「さんぽ」という
枠で、各プロックの会長に日々
思っておられることについて記
事を執筆いただいています。

これからも、「保育おおさか」
は会員の皆様に喜んでいただけ
る機関誌として、伝統を受け継
ぎ邁進していきたいと思えます。
これからも、ご愛読よろしく
お願いします。

伝統受け継ぎ 邁進

保育おおさが編集委員長

齊藤 和正



歴代編集委員長が一堂に会して語る

それぞれの 時代の あんな話 こんな話

創刊500号を迎え歴代の編集委員長にお集まりいただき、当時の印象深い出来事などを中心に語っていただきました。

バトンをつなぎ、500号

門谷…本来であれば、昭和50年に『保育おさか』を創刊され、初代編集委員長を長きにわたって務められた小宮先生のお話から伺いしたいところですが、他界されており、非常に残念です。そのあとを引継ぎました2代目が私ということになります。



2代目編集長
陽気保育園
門谷 明先生

水崎…現在は6ブロックある、それぞれの副部長から1人が編集委員長に抜擢されるのですが、当時は5ブロックでした。平成17年度から部長が高岡先生から現在の永野先生に代わり、その際にブロックをより細

かくしたほうが、各地の情報を入手しやすいのでは、ということとで6つに増えた経緯があります。

門谷…小宮先生の亡き後、当時、副部長の中で一番暇だった私が2代目に選ばれた、ということとです。

一同…いやいやいや（笑）

水崎…その後、3代目、4代目現在と続くわけですが、いずれも年度末に交代という決まりではなく、副部長としてあちこちに出向く仕事が増えてくるに従い、どうしても編集委員長の仕事に手が回らない。毎月の編集会議に参加して、ゴーサインを出すだけでなく、分担で取材や執筆も行うわけですから。そういったタイミングで、次を任せたい人に直接相談し、バ

トンタッチ形式で、この『保育おさか』は現在まで脈々と受

副部長の仕事と並行しながら 当時は編集作業すべてを自分たちの手で

門谷…小宮先生が昭和50年から平成8年3月まで、私が編集委員長を務めたのがその後ですから、平成8年4月から平成13年8月まで。水崎先生が平成19年まで、宮武先生は平成19年から平成21年まででした。

水崎…平成21年から現在は齊藤先生が編集委員長の大役を担ってくださっています。



3代目編集長
寝屋川なかよし保育園
水崎 勝先生

門谷…私が編集委員長の時代には、毎日新聞で編集経験のある尾崎先生に俯瞰的な立場から編集作業に加わっていただいていた。

専門家によるご指導のもとで、

け継がれています。

文章を書く際に役立つ、いろいろな勉強をさせていただきました。私たちの原稿の手直しからグラチェックまですべてに関わっていたとき、当時は紙面を完成させた状態で印刷会社に入稿していました。

宮武…4代目である私の時代になつて、事務局の負担を減らす目的で、編集機能は外部に委託して刷り上がったものを納品いただくようになりましたが、それまではすべて自分たちで行われていたわけですね。

水崎…そのほか、『保育おさか』の体裁で大きな変化といえば、ページが増えたことでしょうか。

宮武…これも、私が編集委員長時代に行われたことです。『保育おさか』には各地の園の活動や取り組みなどを取材形式で紹介する「保育園・認定こども

園をたずねて」というコーナーが現在もあります。

それまで毎月1ページを割いて2園を紹介していましたが、年々、保育園数も児童数もどんどん増え、多彩になっていく状況にあつて、それでは紹介しきれないということで。ページ数を増やし、毎月4園紹介することにしたのです。

齊藤…毎月2園ですと、1年で紹介できるのはたったの24園でしょう。

現在659施設あるすべての保育園をとうてい紹介できせんからね。とはいえ、すべて取材ありきですから、労力が増えたのは事実です（笑）。

宮武…あと、私の時代に2色刷りにも変わっています。

門谷…そうですね、創刊当時は1色刷り、2色刷りに変わったのは平成19年。

齊藤…現在は、「あけましておめでとうございます」のごあいさつとともに晴れやかな写真をたくさん紹介する、1月号の巻頭ページのみ多色刷りを行っています。

写真はやはりカラーがきれいで見栄えもいいですから。本当は毎月多色刷りにできればよいのですが、そこは予算との兼ね合いですね。

それぞれの知恵、アイデア、人脈から 生み出されてきたオモシロ連載の数々

門谷…小宮先生時代にスタートした連載の中で今も残っているのが「ねごと」ですよ。

宮武…編集委員が持ち回りでコーナーを担当するのですが、巻頭



4代目編集長
大野台こども園
宮武 勲先生

ページに掲載されるせいもあってか、毎月注目度が高く、担当になると胃が痛んだものです。

一同…笑)

齊藤…少しでも「ねごと」が

回ってくる順番を遅らせようと

(笑) 編集委員だけでなく大阪府社協の研修生まで巻き込んで担当者を増やそうと悪あがきしたりしてね。

門谷…文章が得意な人はいいでしょうがね。そうでない大半の人は…。自由に表現できる貴重なコーナーではあるのですが、自由というのは時に厄介なものでして(笑)。

水崎…「あの人この人」なんて特定の人物を取り上げて功績や事例などを紹介するコーナーもありましたね。なつかしい。

門谷…私の時代でしたが、『やさしい児童精神医学入門』という連載をスタートさせました。覚えていますか？ 現在、医療法人弘生会理事長・関屋病院医院長・社会福祉法人英芳会理事長・かしわ保育園施設長など歴任されている北畑英樹先生が無償で執筆くださったものですが、精神科医でありながら、保育園や障害者支援施設の運営も行うという実に多彩な方で。約2年にわたって執筆にご協力いただいて、その内容はのちに書籍化もされましたね。

水崎…確か、落語もご趣味ということで、次の連載は、落語は

どうでしょうかとご提案いただきましたよ。

門谷…そうです。多才で、多趣味な方ですから。『やさしい』の連載後には『落語医者の保育うだうだ話』を執筆くださいました。「あやしや小丸」の芸名で

寄席にも出られるほどですから。**水崎**…楽しい連載でしたね。

宮武…もう連載は終わっていましたが、私の時代に、現部会長である永野先生が食に詳しいこともあって「旬」という原稿を書いていただいたこともあります。

齊藤…現在も掲載中のコーナーとしては「保育のまど」が平成18年、「さんぽ」は平成26年に連載がスタートしています。

門谷…「さんぽ」は永野先生の「旬」に代わってはじめたコーナーでしたよね。お忙しいので、毎月書くのがだんだん大変になってきた、ということ。

齊藤…そうですね、ブロックごとに持ち回りで原稿を出しています。一度、「さんぽ」ではなく「よみみち」にタイトルを変えて、震災について永野先生が寄稿されたこともありました。



現編集長
坂門ヶ原保育園
齊藤 和正先生

水崎…「保育のまど」について印象的なのが、イラスト。確かに編集会議でみなさんと相談中にとびらが開かれた挿し絵を見た瞬間に、「保育のまど」と、まさに新コーナーのタイトルがひらめいたんですよ。

齊藤…「保育のまど」については各保育園に事前アンケートを行い、「こんなことが知りたい」

この先も魅力ある紙面作りと情報発信で 会員の期待に応えたい

水崎…小宮先生の任期中には、創刊200号を記念してこれまでの『保育のおさか』を1冊にまとめた記念誌を発刊されていますね。

宮武…私の任期中に400号、門谷先生の時に300号の節目を迎えています。特別企画として座談会を行ったものの、記念誌的なものは特に制作してこなかったもので、500号はいかがでしょうか。

齊藤…何か記念に残るものと計画ですね。メイン企画であるこの座談会もそうですし、オールカラー刷り。200号の

時のように1冊にまとめたと思うのですが、辞書のような厚みになってしまいませんか。なので、過去すべての記事が閲覧できるように、デジタル化して収録したDVDを制作してお配り

「あんなことが知りたい」といった関心の高いテーマを掘り起こしたり、時事的な話題を取り上げたりする、シリーズ企画。座談会を行うときもあります。

毎回、ネタ集めやテーマ探しには苦労させられますよ。どうしても目玉企画が見つからなくて、紙面が埋まらない月もありまして。

したいと思っています。

水崎…あらためて、500号も続いたことがすごいな。非常に感慨深いものを感じます。

宮武…500号も続いた機関誌ですから、これまでいろいろなことが考え尽くされてきたのも事実。そんな中で、新しい企画を生み出していくのは本当に大変だと思うのです。

水崎…創刊当時より格段に園数が増えるに従い、会員数も倍増していますよね。全員を満足させるのは難しいことですが、愛される機関誌であり続けてほしいですね。

門谷…苦労は重々承知のうえで、小宮先生からはじまった『保育のおさか』、この先も連綿と続けていきたいと思います。どうぞよろしく願います。

42「保育おおさか」 年のあゆみ

昭和

- 50 「保育おおさか」創刊(8月)
- 51 法人会計の複式簿記移行に控え
「会計シリーズ」連載開始
- 52 「保育園をたずねて」連載スタート
調査研究委員会の前身である
「財務委員会」発足
- 53 「調査研究委員会」発足
「あの人この人」連載スタート
- 56 第1回 保育絵画展開催
- 57 「保母会だより」創刊
若手保育所長セミナー開催
「育児に関する女性の意識調査」を実施



- 58 「でんわ育児相談」開始
「保育おおさか」100号
- 60 「保育所制度危機を迎えての緊急会」を開催
保育所補助金国庫負担率削減に反対し初めての
「保育おおさか」(号外)を発行
❖「ことわざ保育ムダ話」スタート

平成

- 元 大阪府保母会30周年
「でんわ育児相談」事業発展的解消
- 02 一時保育事業実施
「花の万博」でハワイ州の保育園児とともに2400人
の子どもとパレード開催
- 03 「育児相談員養成研修・初級研修」開始
「保育おおさか」200号
- 04 「育児相談員養成研修・現任研修」開始
- 05 「調査研究委員会」発足15年
- 06 日本が「子どもの権利条約」を批准
エンゼルプラン策定
緊急保育対策5カ年事業策定
- 07 保母海外研修新研修地としてオーストラリアへ
阪神・淡路大震災。施設種別を超え被災者の
救援活動を行う
「育児相談員養成研修・初任者研修」開始
❖「創作・保育ことわざ集」連載スタート
- 08 第40回全国保育研究大会(大阪開催)
- 09 児童福祉法改正(措置制度から利用選
択方式に・コストに応じた保育料に)
「ふれ愛びく大阪」閉会式に園児
1600人が出演
子育て名言集「子どもは育つ」発刊



- 10 保育所における調理業務の委託が認められる
育児相談員養成研修「初級研修」を第一期研修に、
「現任研修」を第二期研修に変更
- 11 児童福祉施設最低基準の一部改正
育児相談員認定証の交付スタート(平成10年度)
「保母」から「保育士」へ名称が変わる
「大阪府保母会」が「大阪府保育士会」として新たに
出発
❖「やさしい児童精神医学入門」連載スタート
- 12 社会福祉基礎構造改革
介護保険制度開始
新エンゼルプラン策定
保育所の認可設置について(企業、NPO個人の認可
園運営が可能に)
児童福祉施設最低基準等の一部を改正する省令(苦
情受付窓口の設置義務化)
「保育おおさか」300号
- 13 待機児童解消に向けた児童福祉施設最低基準に係る
留意事項等について(入所定員の弾力化の枠を撤廃)
保育海外研修新研修地としてアメリカへ
近畿ブロック保育研究会(大阪)開催
- 15 保育士国家資格化
❖「落語医者の保育うだうだ話」連載スタート
- 16 「三位一体改革を考える保育園緊急集会」開催
- 17 特定情報配信ツール「よい子ネット」スタート
- 18 「認定こども園」制度施行
「保育のまど」連載スタート
- 19 「地域貢献事業準備委員会」発足
「地域貢献事業人材養成研修」開始
「保育おおさか」2色刷りに
- 20 保育所保育指針改訂(厚生労働大臣告示化)
「大阪府財政再建プログラム試案」に対する要望活動
「地域貢献事業準備委員会」から「地域貢献事業推進
委員会」へ名称変更
「保育おおさか」6面刷りに
❖「旬」連載スタート
「保育おおさか」400号
- 21 スマイルサポーター
(保育園版)看板設置開始
- 22 子ども・子育て新システム検討会開始
- 23 東日本大震災 発生
- 24 養成校との研究懇談会 開始
- 26 「さんぽ」連載スタート
- 27 大阪しあわせネットワーク特別部会費拠出開始
- 28 スマイルサポーター(認定こども園版)看板設置開始
幼稚園教諭免許取得特例講座 開始
- 29 「保育おおさか」500号
保育部会におけるICT化運用開始
「保育おおさか」500号DVD発行

